

韓国の若者を取り巻く環境

韓国の教育熱の高さは世界でも類を見ないと言われていています。子どもがまだ小学校に入学する前から韓国語の綴りを覚えさせるのはもちろんのこと、英語、数学、科学、楽器、絵画、テコンドーなどの塾を1日にいくつも通わせる、いわゆる‘塾のはしご’状態は珍しいことではありません。日本のように勉強もスポーツも学校でやらせるというより、塾である程度マスターさせて授業に臨むのが韓国の母親の一般的な認識です。大部分はスポーツや楽器は小学校中学年までにマスターさせ、それ以降は勉強に専念させます。

また、大学入試のために夜の10時まで塾で勉強する中学生、高校生のわが子を迎えに行く母親たちの車が道路を占拠し、有名塾が集まる地域ではその時間帯に大渋滞が起こります。疲れた子どもはそのまま家に帰って眠りにつくことができればいいのですが、まだまだ足りない家で家庭教師が子どもの帰りを待ち構えていることもあります。

韓国の風物詩である「パトカーでの試験場入り」。これは日本で言うところの大学入試センター試験の当日にやむを得ない理由で遅



刻しそうになった学生たちのために国を挙げてサポートする一例ですが、日本のニュース映像でご覧になられた方も多いのではないのでしょうか。一生を左右すると言われるその日は小・中・高校が休校か半休になり、朝の通勤時間を遅らせる会社もあります。

このように韓国の受験戦争は小学校の時からすでに始まっていると言っても過言ではありません。韓国の親たちの最終目標は、ひとえにわが子をレベルの高い大学に合格させ、大企業に就職させることなのです。なぜなら、中小企業と大企業では2倍以上の収入格差があると言われていているからです。

一流と言われている大学に入るための必須要件として、韓国では「母親の情報力、祖父の財力、父親の無関心」と言われています。大学入試センター試験以外にも多岐にわたる入学形態は、入試専門のカウンセリング会社が登場するほどに正確かつ豊富な情報、高度な分析力が必要であり、学校や塾で忙しい子どもに代わって大抵母親が情報収集の役目を担います。そして、経済的に余裕のある祖父母がいれば、惜しみなくわが子に高い水準の教育を施すことができ、心強い援護射撃となります。最後の父親の無関心は、父親は余計な口出しをせずにしっかり稼げと言う意味合いでしょうか。なんとも身も蓋もない言葉ですが、現実を実に的確に表現しています。

このような状況を見ると、韓国ではドロップアウトする子どもが多いのではないかと心配になりますが、表面上はそうでもありません。小さい頃から塾のはしごが生活の一部になっているせいか、はたまた周りがみんな塾



〈就業相談会の様子〉

に行くせいで遊ぶ友達がいないのか、大多数の子どもたちは素直にこの熾烈な受験戦争に馴染んでいるように見えます。

では、仮に一流の大学を卒業すれば韓国での就職は保障されているのでしょうか。ここ数年間、韓国の就職率は60%前後と決して高くなく、製造業の不振などにより大企業もリストラを敢行し、人口に対する雇用率はなかなか上昇しません。それでも大卒者が一握りの大企業を目指す理由は、最初に大企業に就職しておけば仮にリストラなどで離職することになっても次の就職先につながりやすいからです。その一方で中小企業は優秀な人材の確保に悩む日々が続いています。

大学卒業後も希望する企業に何年も就職できず、それならばと韓国を飛び出して海外就職を目指す若者も最近増えてきました。自国の就職難から‘スペック’のために留学経験を積み、英語や日本語が堪能な韓国の若者は日本企業からも注目を集めているようです。

また、2年前には「田舎のパン屋が見つけた腐る経済」という日本の書籍が韓国語に翻訳出版され、韓国内で、特に若者の間で反響がありました。マルクスの資本論を引用しながら‘利潤を作らずに自分たちが本当に作りたいパンを作ることで生活の質を上げる’という概念を紹介する内容ですが、ただ闇雲に

受験戦争を戦い、親の期待に沿ってひたすら大企業を目指して走り続けていた韓国の若者にとって、固定概念を覆す一つのきっかけになったのではないのでしょうか。

韓国の若者を取り巻く環境は大変厳しく、‘7放世代(恋愛、結婚、出産、マイホーム、人間関係、夢、就職をあきらめざるを得ない昨今の世代)’と言われています。好転の兆しが見えないなか、それでも若者たちはできる限りの経験を積み、自らの力を信じながらたくましく自活の道を探っています。このような若い力が存分に発揮できるような健全な社会が実現することを願ってやみません。

筆者紹介

柳鍾宇 (ユ ジョンウ)

GIP Korea代表弁理士。ソウル大学電気工学部を卒業。2009年弁理士登録。弁理士になる前は(株)LGディスプレイで設備購買及び技術営業の日本担当を務める。前職の特許事務所では、最初は(株)サムスンの特許明細書作成/中間処理/外国出願などを行い、後に日本企業の韓国出願を担当。趣味はゴルフ。